

# 第9回江戸川総合人生大学祭

## 「10周年記念 夢の対談」



日時：2014年7月26日（土）13：50～  
場所：タワーホール船堀 展示ホール内ステージ  
出演：北野大（江戸川総合人生大学学長）  
※以後「北」と表記  
多田正見（江戸川区長）  
※以後「多」と表記  
司会：松沼満子（江戸川まちづくり学科9期）  
※以後「松」と表記



**松**：皆様、あらためまして、ようこそお越しくださいました。これからのお時間は、私達の夢でありました、江戸川区多田区長様と学長の北野先生にお話しをしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

私は本日進行を務めさせていただきます、まち9期の松沼と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 第9回江戸川総合人生大学祭の感想

**松**：あらためまして多田区長、北野学長よろしくお願い致します。お二人とも早くから会場にお越しいただきまして各ブースご覧いただきました。まずはご覧いただいたの感想をお聞きしたいと思います。多田区長からお願い致します。

**多**：先ほど各ブースを拝見して、皆さんは充実して活動をしていらっしゃるの、自分自身の夢というよりも江戸川区をより良くしていこうという夢を持ってくださっているのではないかと感じました。その心意気で是非よろしくお願い致します。私も皆さんと一緒に良い江戸川区にしたい、皆さんが楽しく住める江戸川区にしたいな、とそういう夢を持ち続けていたいと思っています。

**松**：ありがとうございます。それでは北野学長お願

い致します。

北：今日見せてもらって一番嬉しかったのは、皆さんが本当に喜んで楽しそうに、義務感ではなく自発的にやっている、生きがいを感じているというように見て取れたことです。

正直、ここまで準備するのは大変だったと思います。毎年毎年盛大になって何よりだと思えます。本当にありがとうございます。



「人生大学の？」  
「今でしょー！」  
「人生大学でしょー！」

### 夏休みの思い出

松：ありがとうございました。さて、子ども達もいよいよ夏休みに入りまして、ラジオ体操も始まりましたが、お二人の思い出に残る夏休みをお話しいただければと思います。

多：今、ラジオ体操のお話がありましたが、私の元気の秘訣はラジオ体操です。以前はテレビ体操をずっと続けていました。なぜか今はラジオ体操に移っています。テレビ体操は出演している方全員のお名前を覚えていて、体操をしながら今日は誰がお休みか考えます。頭の体操になりますので、皆さんも試してみてください。

私の夏休みの思い出ですが、田舎育ちで自然がたくさんありましたので、昆虫を追いかけたりしていましたね。

松：なるほど、若さの秘訣はラジオ体操だったのですね。それでは北野学長お願い致します。

北：夏休みには私の家に近所中の子が集まってきて宿題を皆でやりました。上級生の子が下級生の子を教えて、そういう勉強の場だったのを覚えています。また昔は冷蔵庫がなかったので、スイカを買ってきて井戸水に入れて冷やしたとか、そんな思い出があります。今と違ってエアコンもなかったですが、そんなに暑かった気はしなかったです。日陰に入れば何ともなかったですが、最近は異常な程暑いですね。

松：平均年齢 60 歳以上の学生さんにとって懐かしい時代のお話で、共感できたのではないかと思います。

### 人生大学設立の経緯

松：さて本題に入ります。人生大学の設立の経緯をお話しいただければと思います。

北：実は多田区長から丁寧なお手紙をいただいたのです。私は足立区生まれ、足立区育ち、今も足立区に住んでいて、当時足立区にないものが3つあると言われていて、それは大学、大使館、スターバックスだったのです。なんとか大学を作らなければいけない、どうせ作るなら通常の大学とは違う、下町大学のような、現在の人生大学のようなものを作りたいということ、読売新聞にインタビューされて載せていただきました。それをたまたま多田区長が読んでくださって、ご自分の考えている構想と非常に

近いということで丁寧な巻物のようなお手紙をいただきました。そこからお付き合いが始まりました。

多：先生がおっしゃってくださった通りなのですが、長期計画の基本理念が共育協働で、共育というのは誰が教えるというのではなく、お互いが共に学び合いましょうという精神で、その学んだことを力を合わせて実践に移していきましょう、という理念です。共育協働の基本的なところには地域に対して奉仕をしてお互い幸せになっていきましょう、ということにつながるの、それを勉強するような、共育協働の理念を形にしていくものとして大学となりました。

共育・協働の理念を  
形にしていく大学を



多：皆さんに「さすが、この大学は素晴らしい」と言っていたくには学長が大切なのですが、新聞記事を読んでこの方をお願いしたいと思い、お手紙を書きました。するとすぐにやりますとお返事をくださったのです。これで大学は成功すると思えました。私は結構手紙が好きな方ですが、北野先生も同じでお手紙を書くことがお好きなようです。やはりご自身のハートをどなたかに届けたいという時は、電話もあります仕事している時にやたらかけたりでき

ませんし、はがきでお伝えするという先生のお考えに感じ入りました。

北：今「共育協働」とありましたが、最近私が人生大学でよく言っているのは「教育教養」で、何かというと「今日行くところがある、今日用がある」なんです、その場が人生大学とっています。

先ほど区長さんからお話しありましたが、私は筆まめです。お礼を伝える時は電話はだめですね。相手の仕事で邪魔をする恐れがあるので電話はだめ、FAXは相手のトナーと紙を使うからダメ、メールはあまりにも事務的すぎる、そうしたらはがきが一番良いだろうということで下手な字で書いています。大事なことは直筆で書くことですね。



### 大学設立にける熱意

松：ありがとうございます。平成14年の長期計画の中でこの大学を作ろうとして、たったの2年間で設立した素晴らしいスピードから熱意を感じます。その時の大学にける熱意や思いをうかがえますでしょうか。

多：準備委員会にお集まりいただき、北野先生を中

心に議論していただき、1年間に10回程開催して、具体的な話を進めていきました。学科長の先生方にも素晴らしい先生方をお願いしたいということで、その人選もやっていただきました。準備委員会での北野先生のリードがあって、良いものは早く生み出そうという気持ちで取り組んでくださったため、丸1年の準備でできました。

学科長の先生方はじめ講師の先生方も素晴らしい方がご協力くださり、大学の価値を高めていると思います。「良い教育は良い先生と良い生徒がいないと成り立たない」と言った人がいましたが、この大学ではその言葉を証明していると思っています。

北：大学を創る時に大事なものは建学の精神で、共育協働をふまえて学びのための学びではなく、実際に役に立つ学びとして「実学」としました。色々と議論はあったのですが、資格を取るための大学ではなく、学んだことをいかに地域に還元するか、そのためには実学でなければならないのです。そういう方針で学科は決まってきました。最初は船堀で、途中で篠崎に移り、嬉しいことに図書館まであります。正式には「篠崎図書館」ですが私が勝手に「江戸川総合人生大学附属図書館」と呼んでいるのですが、素晴らしい環境にあります。

学科長の先生方はこの10年間誰も変わっていません。感謝しております。

もう一つは事務局の人の力です。大学の事務局というのは何となく冷たい人が多いのですが、ここには思い入れの強い方が多く、学生との良い関係を築いてくれていたのもあり、大学は成功したのかな、と

思っています。



### 学生へのメッセージ

松：ありがとうございます。それでは次の質問に参ります。10年を振り返って、またこれから先に向けて、学生へのメッセージをお願い致します。

多：人生は何のために、とギッシュ先生とお話しをしたことがあります、トルストイは「他者のために生きる」ということが人生を生きる価値とっております。人間何が生きる喜びかというやはり他の人の役に立って喜んでもらうことだと思います。それは自分の仕事を通して達成できるとは思いますが、仕事を離れても終生やっていかなければならないことだと思います。それが生きがいを満たすことになっていきます。

今後も地域で隙間を埋めるため、福祉、教育、介護などについて、地域の力を引き出していく必要があります。つまりボランティアの方々のお手本となっていていただきたいと思います。毎年約100名の入学者があり、皆さんの姿を見せていくことで広がっていくものと思っています。学生さんの数は卒

業生が600名程度ですが、全国に大学のことは広まっています。江戸川区を源にどんどん広がっていくと良いと思っています。

今、産業立国とか観光立国とか何で地域を盛り立てるかを表現として使いますが、私は江戸川区を「ボランティア立区」でいきたいと思っています。今はその途上にあると思いますが、そのうち江戸川区が素晴らしいのはなぜかと聞かれたときに、ボランティアによって成り立ってるのだと言えるようにしていきたいと思っています。



## 江戸川区を「ボランティア立区」に

松：ありがとうございます。すくすくスクールなど江戸川区から発祥している制度がありますが、人生大学も多田区長がおっしゃる通り進んでいくように思います。北野学長もお願い致します。

北：この10年見てきてこの建学の精神は素晴らしいですし、この精神は守っていかなければと思っています。この10年間で講義科目や学科の名前を時代に合わせて変えてきました。でも実学の建学の精神だけは変えてはいけないと思っています。

私は何年か前から「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へシフトしようと言っていますが、「心の豊かさ」とは何でしょうか。「感動すること」と「感謝されること」です。感謝されるというのはボランティア活動の醍醐味です。そういった意味で心の豊かさをより深めるためにも、今日お越しくださいました皆さんの中で入学を検討してくださっている方々には人生大学に入学して、心の豊かさをより深めてほしいと思います。

## 人生大学をどのように利用してほしいか

松：ありがとうございます。これからの10年、区民の皆様にはどのように人生大学を利用してほしいでしょうか。

多：グループ活動ではメンバーが高齢になったりしてメンバーが減っていく場合があります。また一方で新しい方がグループに入って下さる場合もあります。そこがうまくいったら良いなと思います。最初から活動している方々の中に入っていくということは勇気がいりますが、是非入ってもらいたいと思います。また活動していらっしゃる方も是非新しい方を受け入れてほしいと思います。

区民の方々にもこれまでにできている諸活動グループに関心を持って、積極的に入ってほしいと思います。

北：ボランティアという英語がありますが、自発的に、という意味です。自らの意志で自らの考えで実行していくのがボランティアだと思います。今46の新しいグループができて、充分学んだことを実行

してくださっていると感じています。メンバーの高齢化の問題はありますが、ここにはしっかりとした同窓会があり、立ち上げたグループの相互のつながりをどう強化していくかを、今後の同窓会の一つの役割としてお願いできないかと思っています。教職員と同窓会の力を持って人生大学の目標を達成していきたいと思っています。

## 最後に一言

松：ありがとうございます。卒業生の皆様の今後のご活躍も楽しみです。さて最後にお一言ずついただけますでしょうか。

多：最後に洒落で締めます。この対談とかけてスライツリーの展望台と説きます。

松：その心は。

多：松沼さん、司会（視界）がいいですね！

松：ありがとうございます。北野先生もお願い致します。

北：今まで10年やってきて体調とか仕事で辞めていかれた方がいらっしゃいますが、難しくついていけないという理由で辞めた方は一人もおられません。一歩進んでもらえれば入ってよかったと思っていただけだと思います。是非有意義な、生きがいのある人生を送るためにもご入学をしていただければと思います。

松：ありがとうございました。お時間ですのでここで締めさせていただきます。多田区長、北野学長ありがとうございました。